

ゴール13 「気候変動に具体的な対策を」

SDGsゴール13は「気候変動に具体的な対策を」を目標としています。

世界では、熱波や干ばつ、集中豪雨、大型台風など様々な自然災害が起こっています。その原因と言われているのが、二酸化炭素などによる地球の温暖化に伴う気候変動です。

日本でも、熱帯夜と言われる最低気温が25℃以上の日が、統計を取り始めた1910年から1939年の30年間の平均日数と最近30年間の平均日数を比べると、およそ2・7倍に増加しています。このような温暖化により、近年では、何年に一度と言われるような豪雨災害が毎年のように全国各地で発生しています。私たちが、便利で快適な暮らしをすることで発生する二酸化炭素が原因であるならば、決して他人ごとではありません。気候変動による災害に備えることも重要ですが、気候変動の原因を作らないことも必要です。脱炭素社会の実現が求められています。



○行政の役割としては

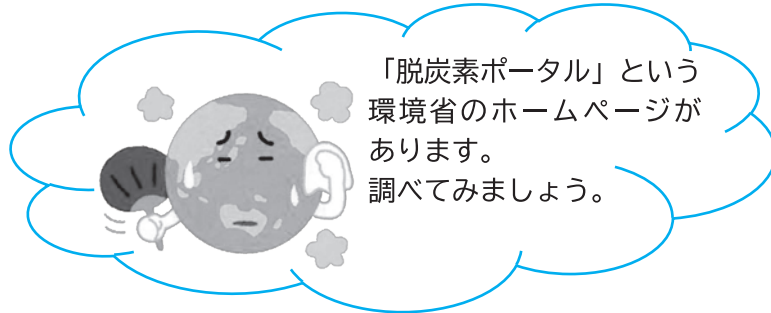
気候変動問題は年々深刻化し、すでに多くの形でその影響は顕在化しています。従来の温室効果ガス削減といった緩和策だけでなく、気候変動に備えた適応策の検討と策定を各自自治体で行うことが求められています。

○私たちができること(例)

- ・ 脱炭素、カーボンニュートラルについて調べてみる。
- ・ 節電、省エネなどを実践してみる。
- ・ 公共交通機関の利用やアイドリングストップを実践してみる。

2030年までの国際的な目標の実現に向け意識をして実践しましょう。

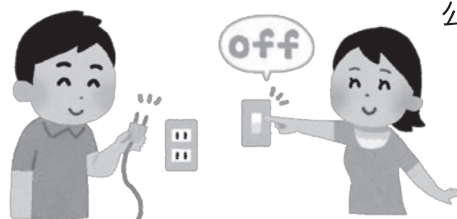
私たちができること(例)



公共交通機関の利用



インターネットなどで調べてみる



使っていない電化製品のスイッチOFFやプラグを抜くなどの節電

目標達成のためのターゲット

- 気候に関する災害や自然災害が起きたときに、対応したり立ち直ったりできるような力をすべての国でそなえる。
- 気候変動への対応をそれぞれの国が、国の政策や戦略、計画に入れる。
- 気候変動が起きるスピードをゆるめたり、気候変動の影響に備えたり、影響を減らしたり、早くから警戒するための、教育や啓発をより良いものにし、人や組織の能力を高める。

SDGs 13「気候変動に具体的な対策を」では、上の3つのターゲットを含む、全5のターゲットを掲げ、目標達成に向けて取り組みを進めていきます。

※公益財団法人 日本ユニセフ協会HP引用